

2014 くすのき

**VOL.25**

# 樟 樹

樟樹会 新居浜西高等学校同窓会



# 愛媛県立新居浜西高等学校 創立100周年準備開始!

## 会長あいさつ



樟樹会会長  
畑田雅敏  
(昭和44年卒)

皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃は同窓会活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。誌面ではございますが平素の疎遠をお詫びし、厚く御礼申し上げます。

卒業後50年を迎えられた昭和39年3月卒業の先輩方を本年3月1日の卒業証書授与式に、西高よりご招待いただき、43名の先輩方が出席されました。

その後、記念撮影をし、リーガ新居浜に移り、同期会が行われました。出席された谷博子先輩が、後日「50年ぶりの卒業式」と題して投稿された手記が、愛媛新聞に掲載されました。当時は大学受験でほとんどの生徒が卒業式に出席できなかった思い出を振り返り、感無量の体験ができたと思いでいただきました。来

年のご招待は、昭和40年ご卒業の先輩方となります。学年幹事様には素敵な企画をしていただきたいと願います。

さて、本校は大正6年5月3日、西町の新居浜町役場内に新居浜町立実科女学校として開校され、大正8年4月に新居浜町立実科高等女学校となりました。大正12年12月には校友会誌創刊号が発行され、昭和15年4月には愛媛県立新居浜高等女学校となり県移管。昭和16年5月には同窓会誌創刊号が発刊されました。昭和23年4月に愛媛県立第二高等学校と改称、6月には定時制高等学校を併設開校。

昭和24年9月愛媛県立新居浜工業高校と合併し、愛媛県立新居浜西高等学校となりました。そして昭和25年4月新居浜東高・西条北高より男子生徒が編入され、男女共学となり現在に至っております。

この間、時代の流れにより幾多の変遷を経て、大正・昭和・平成の三代にわたり、愛媛県における教育の向上に多大の貢献をし、戦後の学制改革後はその輝かしい歴史と伝統をさらに発展させ、現在では運動部・文化部の華々しい活躍と、進学における全国屈指の優

秀校として知れわたりました。また、この素晴らしい自由と活力にあふれた母校に学び、育っていった卒業生は32,000人を超え、国内はもとより広く海外に雄飛し、各界で活躍いたしております。

幸い、県並びに県教育委員会のご高配と同窓会会員・PTA各位・地域有志の絶大なご協力・ご支援により、現在のように素晴らしい教育環境が整備されて参りました。

いよいよ、平成29年には記念すべき母校創立100周年を迎えます。

本年はその第一歩としてどのような記念事業を行えばいいか? 学校・PTAと協議のうえ期成会を立ち上げ進めてまいりたいと存じます。同窓会誌またはホームページでその都度お知らせいたしますので、なんなりとご意見を賜ればと思っております。

本年より佐々木靖夫学長(S・50普)および100周年準備室長を担当される鈴木一宏先生(S・58普)が赴任されました。同窓生の皆様には今後ともご理解いただきまして、これまで以上のご協力ご支援お願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

# 本誌だより

## 50年目の卒業式

平成25年度卒業証書授与式に、卒業から50年を迎えた会員が招待されました。

50年経って、懐かしい母校の体育館で、卒業式に参列された先輩方は、「とても感激です。当時を思い出しました。」と、感想を述べられました。

昭和23年4月、学制改革により、新居浜高等女学校から新居浜第二高等学校となり、定時制高等学校を併設、さらに高等学校再編成で、新居浜西高等学校へと、母校の歴史はめまぐるしいものでした。

そのような中で開催された当時の卒業式とはどんな様子だったのでしょうか。

大学受験で、卒業式に出席できなかったという話はよく耳にします。そのような方にこそ、ご参列いただきたいものです。

今年も、292名の新同窓会員を迎えました。同窓会がますます発展できますよう、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



## 平成26年度 事業計画

月日	会 合 名	事 業 内 容
3月20日	樟樹編集委員会	「樟樹」25号 印刷所承認・概要相談
4月10日	会 計 監 査	平成25年度 会計帳簿類
4月21日	樟樹編集委員会	「樟樹」25号 原稿依頼先および責任者決定
5月10日	第1回常任理事会	平成25年度 事業報告 平成25年度 会計決算報告 平成25年度 会計監査報告 平成26年度 役員改選 平成26年度 事業計画案審議 平成26年度 予算案審議 平成26年度 総会・懇親会開催準備について その他
5月12日	樟樹編集委員会	原稿持寄り・ページ構成・レイアウト打合せ
5月19日	第1回理事会	平成25年度 事業報告 平成25年度 会計決算報告 平成25年度 会計監査報告 平成26年度 役員改選 平成26年度 事業計画案審議 平成26年度 予算案審議 平成26年度 総会・懇親会開催準備について その他
5月26日	樟樹編集委員会	前回分校正・第2次原稿持寄り
6月 2日	第2回常任理事会	平成26年度 総会・懇親会開催準備について 総会の議事内容、運営方法、会員券の販売 招待者、チラシ、ポスター等 その他
6月 2日	樟樹編集委員会	校正
6月 4日	第2回理事会	平成26年度 総会・懇親会開催準備について 総会の議事内容、運営方法、会員券の販売 招待者、チラシ、ポスター等 その他
6月 9日	樟樹編集委員会	最終校正
6月18日	西高祭支援	チャリティバザー模擬店出店 合格たて焼き・合格焼きそば・フランクフルト・百鬼どら焼き・ラムネ等販売
7月15日		「樟樹」25号 発行
8月 2日	総会・懇親会	平成25年度 事業報告 平成25年度 会計決算報告 平成25年度 会計監査報告 平成26年度 役員改選 平成26年度 事業計画案審議 平成26年度 予算案審議 その他
1月下旬	第3回常任理事会	平成26年度の反省及び平成27年度の予定 同窓会入会記念品及び同窓会賞について その他
2月上旬	第3回理事会	平成26年度の反省及び平成27年度の予定 同窓会入会記念品及び同窓会賞について その他
2月下旬	同窓会入会式	新会員へ入会記念品贈呈
3月上旬	同窓会賞授与	卒業式にて授与（全日制 定時制 若干名）
備考	『東日本樟樹会』 『近畿くすのき会』 『松山樟樹会』	5月25日（日曜）総会開催 6月28日（土曜）総会開催 2年後の秋頃 総会開催予定

## 平成25年度 樟樹会一般会計収支決算書

平成25年4月1日～平成26年3月31日

	項 目	25年度予算額	25年度決算額	備 考
収入の部	前年度繰越金	1,640,422	1,640,422	
	入会金（全日制）	2,709,300	2,679,600	812人（延べ人数）
	入会金（定時制）	297,000	227,700	23人
	雑 収 入	1,000	8,340	預金利息・貯金利息・会員名簿販売
	運 営 会 費	1,500,000	1,103,000	運営会費 184件（1口、3,000円から） 賛助会費 41件（1口、10,000円から）
	収入合計	6,147,722	5,659,062	
支出の部	会 合 費	1,000,000	1,060,461	理事会・総会補助
	慶 弔 費	50,000	45,000	饗別・香典
	人 件 費	1,560,000	1,560,000	賃金
	事 務 費	100,000	80,011	
	同 窓 会 賞	30,000	15,000	全日制 2名 定時制 1名
	入 会 祝	600,000	580,140	全日制 269名 定時制 23名
	支部への補助金	100,000	60,000	各支部総会 お祝い金
	旅 費	100,000	160,000	各支部総会 出席
	生徒への補助金	500,000	810,000	四国・全国大会補助
	その他の事業費	120,000	130,617	西高祭生徒会支援 高校野球広告料他
通 信 費	230,000	237,944	電話代 切手・葉書代	
雑 費・予 備 費	200,000	222,822	運営会費徴収に関する費用他	
	次年度繰越金	1,557,722	697,067	(現金) 13,520 伊予銀行新居浜支店 (普通預金) 547,720 ゆうちょ銀行新居浜三原支店 (通帳貯金) 35,387 ゆうちょ銀行 (加入口座) 100,440
	支出合計	6,147,722	5,659,062	

## 平成26年度 総会および懇親会のご案内

**日 時** 平成26年8月2日(土)  
**総 会** 17時30分開会  
**懇親会** 18時30分から  
**場 所** レイグラッツェふじ  
 新居浜市高木町3-2  
 TEL 0897-34-2211  
**チケッ** 3,000円(一般会員)  
 1,500円(平成19年以降卒業会員)

当日も受付けます。  
 ご要望に応じて、同期生・部活等の  
 テーブルをご用意します。

# 藤生

にわたり活躍されている  
するコーナーです

# 介

## Profile

昭和52年 新居浜西高等学校普通科卒業  
昭和56年 愛媛大学教育学部卒業  
昭和62年 神戸大学大学院博士課程修了、  
学術博士（神戸大学）  
同年 神戸大学大学院助手  
平成5年 三重大学教育学部助教授(日本史担当)  
平成15年 同教授  
平成25年 同学部長 現在に至る



藤田 達生

ふじた たつお

## 蛮勇のすすめ

私は、西高時代から歴史に興味を持っていました。「社研部」（今も活動しているそうですね）には3年間所属しましたが、顧問の吉本拓・越智照人両先生のもと、2年生からは部長として同級生や後輩の部員とともに郷土史を調べたり発掘に参加したりしたことを、まことに懐かしく思い出します。

クラブハウスの中に部室を確保し、10人ぐらいの部員が入りしており、夏は合宿（史跡見学や県教委の発掘の手伝い）、秋には文化祭（調べたことを模造紙にまとめたリ遺跡の模型を作ったりして教室に展示し解説する）など、それなりに充実していました。

本州四国連絡橋がない時代だったこともあるでしょう。私たちのふるさとの歴史は、教科書に書かれているような中央史とでもいいたいでしょうか、いわゆる通史とは関係ない地方史だという決めつけが、その頃の私にはありません。地元の中学か高校の社会の教師になって、こつこつと地方史の掘り起こしができればとの思いで、愛媛大学教育学部に進学しました。

しかし、戦国時代の日本も狭かったのです。この時代、管領細川氏やその家老三好氏をはじめとする四国衆が、天下の実権を握っていたことを知り驚愕しました。新居郡を治めていた高峠城（西条市）の城主石川氏は、三好氏から正室を迎えていたので

す。

大学で中世史の勉強を進めていくうちに、中央史と地方史という区別そのものが誤っていたことに気づきました。地方大学で学問のおもしろさに目覚めて、父親の猛烈な反対（当時は教員の大量採用時代でした）と戦いながら神戸大学文学部の大学院で研究を始めましたが、さして深刻に将来を考えず、まさに蛮勇を友にしての青春時代でした。

博士課程の3年間で博士論文を書き上げ母校の助手に採用されるなど、振り返れば本当に幸運だったとしか言いようがありません。後輩の皆さんには、私の様な非力な者でも、研究を続けたいという一念で、ここまで来れたことを強調したいと思えます。「どうせ自分には無理だから」と諦めた瞬間、青春は終わってしまうのです。

実のところ、私の高校時代は灰色の日々でした。田圃に囲まれた泉州中学校の出身でしたから、標準語が共通語（今はどうでしょうか。その頃の住友城下町は繁栄しており、新居浜に住む東京人も多かったからだろうと思います）の西高は、まさに「都会の別世界」でした。また、今から考えてみると異常なほど進学一辺倒な生徒指導がまかり通っており、人権意識の低さに少なからず反発を感じていました。

いかに生きるべきかに悩み、劣等感に押しつぶされそうな毎日でした。友達とはうまくつきあえず、受験勉強も手につかず、挫折の記憶しか残っていません。瞬間に40年が過ぎましたが、自分なりにがんばっていたことを認めることができ、同級生との交流を再開するようになったのは、ごく最近のことです。

ところで『秀吉と海賊大名』（愛媛出版文化賞受賞）に続き、『天下統一』（いづれも中公新書）を上梓しました。地方人としての立場から戦国時代史の再構築に挑戦したもので、これまでの研究の総決算のつもりで書き上げました。ぜひ、ご一読ください。「常識」「通説」を疑うことの大切さを、今後も学界のみならず広く発信していきたいと思えます。





# 同窓生 文化面、産業界など各界 同窓生をご紹介します 紹介

## 夜間日本語教室は プラットフォーム

新居浜市に現在、何人の外国人が住んでいると思いますか。今は新居浜市もグローバル化し、いろいろな国籍の外国人が住んでいます。日本語を教え始めた頃つまり、20年前は、新居浜市の英語助手と英会話学校の先生ぐらいで数えるぐらいしか外国人はいませんでした。

私が日本語を教えるボランティアグループを作ったのはまちづくりの活動がきっかけでした。愛媛県では「人づくり」の施策のひとつとして昭和63年に新居浜市生活若者塾が開設され、私も塾生になりました。その塾の目標に「心のふれあいまちづくり」というのがあり、具体的事業に転入者をやさしく受け入れるまちづくりをあげていました。新居浜市にずっと住んでいる「生粋の浜っ子」もよそから転入してきた「新入りの浜っ子」も「転勤族」も新居浜市民であり、もちろん、外国人も新居浜市民であるというコンセプトのもと、みんな快適な暮らしができることを目標に活動をしていました。国際交流ということで、インターナショナルパーティーも開催しました。

平成3年、入管法が変わり、日系ブラジル人、ペルー人は就労ビザが下りるようになり、新居浜でも南米系の外国人をよく見かけるようになりました。彼らは土木作業、縫製の仕事に従事していました。日本語がわからないことで危ない目に遭うということと聞き、日本語を勉強してもらい、日本

での生活を安心して過ごしてもらおうと日本語夜間教室を開きました。

日本語教室を開くにあたってはいろいろな苦労が伴いました。まだ、日本語教育という言葉が広く知られていなかった時です。行政に協力をお願いしても断られ、自分たちで切り開かなければなにもできませんでした。いろいろな会社を回り夜間教室を開くというチラシを配りました。とにかく、せっかくな新居浜に来た外国人に日本語を教えるという気持ちで燃えていました。第1回目の時、教室から見ているとブラジル人、ペルー人が30人こちらに向かっているではありませんか。その時の感動は今でもわすれられません。今は、毎週火曜と木曜の夜、新居浜市総合福祉センターで夜間日本語教室を継続して開いています。生徒たちの国籍は中国、韓国、アメリカ、インド、ベトナム等、世界中から来ています。彼らは工場で働く実習生、企業で働く会社員、国際結婚した主婦などです。



彼らの日本語成果発表として、毎年日本語スピーチコンテストを開いています。今年は7月13日です。一生懸命勉強した日本語を使い、自分の意見や感想、日本へ来て驚いたことなどを発表します。興味のある方は是非聞きにおいでになってください。

私が日本語を教えるボランティアグループを作ったのはまちづくりの活動がきっかけでした。愛媛県では「人づくり」の施策のひとつとして昭和63年に新居浜市生活若者塾が開設され、私も塾生になりました。その塾の目標に「心のふれあいまちづくり」というのがあり、具体的事業に転入者をやさしく受け入れるまちづくりをあげていました。新居浜市にずっと住んでいる「生粋の浜っ子」もよそから転入してきた「新入りの浜っ子」も「転勤族」も新居浜市民であり、もちろん、外国人も新居浜市民であるというコンセプトのもと、みんな快適な暮らしができることを目標に活動をしていました。国際交流ということで、インターナショナルパーティーも開催しました。

平成3年、入管法が変わり、日系ブラジル人、ペルー人は就労ビザが下りるようになり、新居浜でも南米系の外国人をよく見かけるようになりました。彼らは土木作業、縫製の仕事に従事していました。日本語がわからないことで危ない目に遭うということと聞き、日本語を勉強してもらい、日本

での生活を安心して過ごしてもらおうと日本語夜間教室を開きました。まだ、日本語教育という言葉が広く知られていなかった時です。行政に協力をお願いしても断られ、自分たちで切り開かなければなにもできませんでした。いろいろな会社を回り夜間教室を開くというチラシを配りました。とにかく、せっかくな新居浜に来た外国人に日本語を教えるという気持ちで燃えていました。第1回目の時、教室から見ているとブラジル人、ペルー人が30人こちらに向かっているではありませんか。その時の感動は今でもわすれられません。今は、毎週火曜と木曜の夜、新居浜市総合福祉センターで夜間日本語教室を継続して開いています。生徒たちの国籍は中国、韓国、アメリカ、インド、ベトナム等、世界中から来ています。彼らは工場で働く実習生、企業で働く会社員、国際結婚した主婦などです。

きたいと思います。私たちは外国語として日本語をとらえ、日本語を教えています。ボランティアといえども毎週勉強会を開き、教え方、文法を勉強しています。グループのモットー「心はボランティア、教え方はプロ」を心にがんばっています。

日本語教室はプラットフォームのようなものです。日本語が話せるようになることで、ご近所さんとの交流も広がるでしょう。会社では同僚との会話も広がっていくでしょう。地域の文化教室にも参加できるよう。縁あって日本へ来た外国人の出発進行をこれからも支えられるようにがんばっていきたくと思っています。



土井 美智子

どい みちこ

### Profile

- 昭和46年 新居浜西高等学校普通科卒業
- 昭和48年 武庫川女子短期大学 国文科卒業
- 昭和61年 第20回総務庁主催青年の船参加
- 平成 6年 愛媛大学非常勤講師
- 平成23年 今治明德短期大学特任講師

# の 歩 み

## 高校野球を通して得たもの

野球部 永 易 佑 喜 (平成26年卒)



私がこの新居浜西高校野球部に  
入部した1年の春、監督は私たちにこう言った。「高校野球は今までお前たちがやってきた野球とは異なり特殊なものである。」この言葉の意味を高校野球を終えた今、とても意義深いものであったと強く感じている。入部時には高校でも野球をするのに変わりはないのだから、いったい何が特殊であるのか意味が分からなかった。高校野球は甲子園に出場するだけが全てではない、試合に出場しチームに貢献するだけが全てではない、私は高校野球を通して礼儀やマナーを学ぶといった人間形成であったり、たくさんの方々に支えられ野球が出来ることに感謝する気持ち、野球部が中心となって学校を引っばっていく強い思い、それこそ今までやってきた野球とは異なる本当の高校野球であることを知ることが出来た。

また、そのようなことは一見野球の勝負とは関係ないと思われるかもしれない。しかし私たちのチームのような個々の能力が決して高いとは言えないチームでは、そのような細かいところが重要になってくる。実際、新チーム結成当初試合では紙一重のところ屈してしまい敗れることが多かった。その紙一重の部分こそ普段のあいさつや目の前にゴミが落ちていたら拾うといった小さなことである。そんな小さなことが出来ない人が相手チームの小さな隙を見つけてつけ入ることは出来ないのである。そして私たちはこのことをもう一度チーム全体で見つめ直し、野球のプレーに関しても日々向上するために夏の大会に向けて練習を行っていた。

迎えた夏、初戦の相手は北条高校、決して楽に勝てる相手ではなかった。しかし大会が近づくとつられて先生方や保護者、たくさんの友人に応援の声をもらったとき、本心に嬉しかったし、野球を続けて良かったなと改めて思った。そして、そのような方々に少しでも長い夏を見せられたならと思っていた。初戦、序盤に失点したものの、危なげながらも勝つことが出来た。もちろん、今までともに努力し切磋琢磨してきた仲間とまだ野球を続けることが出来る喜びも大きかった。しかし私はそれ以上にこれまで私を指導し、支え、応援してくれた方々に少しでも恩返しが出来たかなと思っただけ。

2回戦も順調に勝ち進み、3回戦に進んだ。相手はシード校の松山聖陵高校、結果はゴールド負けという結果だった。しかし私は全く後悔はしていない。全力を出し切ることが出来たし、負けたとき私は悔しきよりもむしろ満足の方が大きかった。こうして私たちの夏は終わった。

今、改めて高校での3年間を振り返ってみると野球の思い出が色濃く残っている。当然、楽しいことや嬉しいことだけではなく、辛いこと苦しいことも多かった。でもこうして新居浜西高校野球部での思い出は決して忘れることなく、私の一生の宝物であると思う。これからの大学や社会において、野球部で学び、培ってきたものを生かしていきたいと思っている。





# 部活動



## 夢の舞台へもう一度

合唱部 3年2組 白石 佳奈子

紫煙る石錠の、高き理想を抱きつつ――

緊張して迎えた2年前の入学式で初めて聴いた西高の校歌は勇敢で深く、身の引き締まる思いがしたことを今でもよく覚えていますが。また、それを歌う先輩方は大人っぽくて、とても眩しく見えました。

そして今、私たちがその校歌を歌っています。入学式や卒業式では、明るい未来にエールを送るつもりで晴れやかに、芸術祭などのステージに立つ時には、西高生としての誇りを持ち、感謝の気持ちを込めて歌います。あの日の先輩のように、少しは憧れられる存在に成長しているだろうか――と自分自身に問いかけながら。

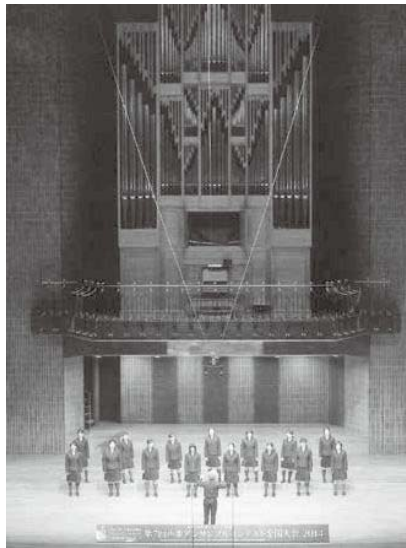
合唱部はここ2年、連続して「音楽アンサンブルコンテスト」の全国大会に出場しています。一度目は入部1年目の2013年3月で、会場となる福島市音楽堂に入った瞬間、私は息をのみました。壁は深い海の碧色で九谷焼のタイル張りでした。正面には、デンマーク製のパイプオルガンがそびえるように立っていて、異空間に迷い込んだような気さえしました。なぜなら、私たちの学年は例年に比べると入部者は多かつたものの、中学からの合唱経験者は少なく、まさかこんな大舞台に立つことができるなん

て思ってもみなかったからです。ステージに立った時の緊張感

は最高潮に達していました。普段と変わらない一色先生のピッチパイプの音で少し気持ちがほぐれたようでした。みんなの声があまく重なり、やわらかなハーモニーがホール中に響き、溶け合っていくような感じがしました。そして夢中で歌った結果、銅賞をいただくことができました。

このことは私たちにあって、とても幸運で貴重な経験だったと言えます。2年生になっても、全国の舞台で歌ったあの時の感覚が忘れられず、もう一度あの場所に戻りたい、と強く思うようになり、その後の練習への取り組み方が変わるきっかけになりました。

後輩たちが加わり、新たなコンクールメンバーが結成された合唱部。前回は、自分にできる精一杯の努力をしてベストを尽くすだけの後輩という立場から、部員をまとめる先輩という立場となった私たちは、2年連続出場へのプレッシャーもあり、日々焦りや悩みでいっぱいでした。勉強との両立を考えれば普段の練習時間はそんなに多くは



とれません。塾や習い事、兼部している人もいて、いつも全員が揃うわけでもありません。当然ながら、全国を経験していない後輩との意識にも差があり、みんなの気持ちをまとめることが一番難しく、苦労しました。

しかし、仲間たちと切磋琢磨しながら、大きな目標に向かって進んだ結果、再び全国の舞台に立つことができました。結果は優良賞でしたが、ここに戻ってくることを夢みて頑張った日々を思うと、胸が熱くなりました。そして、ホールに響く拍手は今までにないほどの高揚感や安堵感を与えてくれました。

いつもご指導下さっている一色先生、日野先生をはじめ、応援して下さいました多くの方々に心から感謝しています。全国大会出場によって得た刺激や感動を忘れない、これからも進化する合唱部でありたいと願っています。



# 母校の概況

Nihama-Nishi High School

## 生徒・保護者・地域とともに



校長 佐々木 靖夫

樟樹会の皆様には、母校新居浜西高等学校に対して、変わらぬ御支持・御協力をいただいていることを厚く御礼申し上げます。

私は、本年度の人事異動により、南予の三瓶<sup>みかめ</sup>高等学校から転任してまいりました。私事ですが、出身は地元新居浜市の垣生、太鼓台という山端太鼓台になります。そして、昭和50年3月に、本校の全日制普通科を卒業した同窓生でもあります。つまり、縁あって、前任の藤田校長とともに本校の同

窓生が2代続いて校長を務めることになったわけです。ただ、月日の経つのは早いもので、卒業してから、なんと40年近くもの年月が経っていました。本校の様子も随分変わり、多少の戸惑いがありますが、母校で勤務ができることを大変うれしく、光栄に思っております。本校の発展のために精いっぱい努力をして行きたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

さて、本校の生徒数は、本年度全日制797名、定時制72名の計869名となっております。少子化のため、全日制は、各学年ともに7クラスとなり、体育祭も本年度からは3つのグループで行うことになりました。これより先、定員数が減らないように、近隣の中学校へもしっかり働き掛けていきた

いと思っています。また、定時制については、東予地方にある県立学校は、川之江・西条・今治西と本校の4校のみになりました。そんな中、単位制の定時制高校として、県下で2番目の規模を誇りますます存在感を増しているところではあります。

ところで、昨年度の進路状況は、国公立大学合格者が169名、現役生のみで143名。国公立大学合格率は現役者の全日制卒業生の53.5%に当たり、過去7年間で最高の値になりました。また、東大1名、京大2名など難関大学への合格者は20名で、例年並みの十分な成果を挙げられたのではないかと思います。また、元の愛媛大へも、医学部医学科の5名を含め、計39名が合格しました。本年度の重点努力目標にも掲

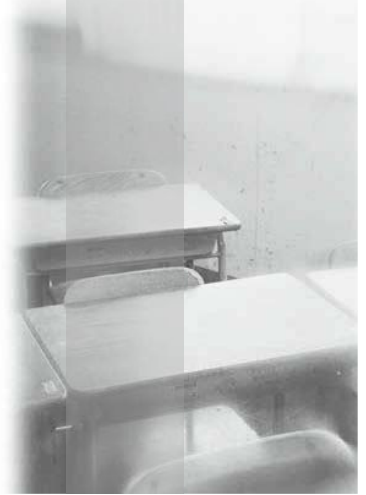
げている「魅力ある進学校を目指して」という大きな目標に向けてさらなる発展を続けていきたいと思っております。

部活動においては、4月末の東予予選を勝ち上がり、県総体へ出場する生徒数は178名となりました。昨年度と比べて、やや減りましたが、部員数が減る中でよく健闘してくれたと思っております。この後、県総体では、本校らしい戦いをし、さらに、四国大会、全国大会（インターハイ）への出場者が数多く出ることを強く期待しております。

また、5月10日（土）に行われたPTA総会では、授業参観におきましては教室の中に入りきれないくらい多くの保護者の参加があり、各家庭の熱意あふれる参加がヒシヒシと伝わってまいりました。

また、総会におきましては、工都新居浜の勢いが肌感じられるような熱心な会議になりましたことをここに報告したいと思っております。

最後に、本校は現在97周年目を迎えています。3年後には、100周年記念行事を行うことになっていきます。それを前に、本館の改築（新築）工事も間もなく始まります。さまざまな歴史を歩んできた本館校舎とお別れすることは大変さみしい限りですが、来年度末には、耐震基準をきっちりクリアした立派な校舎が完成する予定です。今後も、畑田会長をはじめ、樟樹会の皆様方には、本校に対する一層の厚い御協力・御支援を賜りますようお願い申し上げます。御挨拶いたします。





## 教職員の異動

## ▼大学合格一覧

最近3カ年の総合合格者と、大学別合格者の一部を紹介しておきます。

	24年	25年	26年
国公立大	141	143	169
私立大	338	411	435

北海道大	1	0	0
東北大	1	0	3
東京大	2	3	1
名古屋大	0	1	0
京大	2	1	2
大阪大	3	5	3
神戸大	4	3	6
岡山大	13	16	18
広島大	8	6	8
愛媛大	29	33	39
九州大	5	7	5

## ▼年間行事予定

月	日	行 事
4	8	全日制入学式・1学期始業式・定時制入学式
5	10	PTA 総会
	19	1学期中間考査(～22日)
	30	県高校総合体育大会(～6月2日松山市周辺)
6	18	西高祭
	30	1学期期末考査(～7月4日)
7	18	1学期終業式
8	26	2学期始業式
9	4	運動会
	7	定時制・通信制県総合体育大会
	30	2年生2学期中間考査(～10月3日)
10	6	2年生修学旅行(～10日)
		1・3年生2学期中間考査(～9日)
11	15	県高校総合文化祭(～16日松山市周辺)
	16	定時制運動会
	27	2学期期末考査(～12月3日)
12	19	2学期終業式
	1	3学期始業式
1	8	3学期始業式
	17	大学入試センター試験(～18日)
2	25	学年末考査(～3月4日)
3	1	全日制卒業式・定時制卒業式
	20	3学期終業式

校長 佐々木靖夫 (三瓶)  
 教頭 渡邊洋人 (土居)  
 事務長 黒河理 (東予)  
 国語 津村和芳 (川之江)  
 国語 岡本麻由 (今東中等)  
 国語 渡邊琴子 (今北)  
 数学 真田満 (西条)  
 理科 河野嘉恵 (今東中等)  
 理科 内山直子 (今西)  
 理科 鈴木一宏 (新採)  
 理科 今井弥生 (三島)  
 保健 藤澤真美 (小松)  
 英語 池本和人 (今東中等)  
 英語 岡内昌代 (今北)  
 事務 孝司 (今特)

校長 藤田繁治 (松東)  
 教頭 藤田正司 (退職)  
 事務長 河野良彦 (退職)  
 国語 石川美千子 (退職)  
 国語 大屋満徳 (松東)  
 国語 加藤あゆみ (退職)  
 国語 渡邊修 (退職)  
 地公 浅田武裕 (三島)  
 理科 佐々木謙一 (松南)  
 理科 田村謙悟 (西条)  
 理科 末光可奈 (三崎)  
 理科 篠原正文 (退職)  
 保健 岡野佳代 (退職)  
 芸術 一色良一 (退職)  
 英語 鈴木美穂 (川之江)  
 英語 井川美穂 (三島)  
 英語 菊池千幸 (川之江)  
 英語 浅田麻理美 (今南)  
 事務 渡部秀樹 (今北)

## ▼同窓生が母校の教壇に立つ

(氏名) 塩崎 勇人 (卒業年) (教科等)  
 (再任用) S 46 地公  
 (再任用) S 46 国語  
 (再任用) S 46 校長  
 佐々木靖夫 S 50 校長  
 佐々木利夫 S 48 校長  
 願成寺 優 S 56 教頭  
 渡邊 洋人 S 54 教頭  
 吉田 明正 S 56 数学  
 鈴木 一宏 S 58 理科  
 日野 右子 S 59 保健  
 塩崎 美都 S 63 英語  
 藤澤 真美 S 63 英語  
 松本恵理子 H 9 英語  
 片岡 大介 H 9 地公

(氏名) 小池 佳子 (卒業年) (教科等)  
 H 9 英語  
 倉光久美子 H 11 理科  
 下田 賢吾 H 12 保健  
 吉村 新平 H 15 数学  
 山口 瞳 H 20 事務





6月15日 四国高校総合体育大会

少林寺拳法 女子自由単独演武

田中 遥さん 優勝  
インターハイへ

## 平成26年度愛媛県高等学校総合体育大会 結果一覧

5月30日から6月2日（水泳は6月14・15日）にかけて、愛媛県高等学校総合体育大会が松山市を中心に開催され、本校からも178名が参加し、各競技で活躍した。主な結果は下記の通り。

<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>陸上競技男子</b></li> <li>800m 清村 恒大 2位 (四国大会出場)</li> <li>1500m 島田 達</li> <li>清村 恒大</li> <li>伊東 翔吾</li> <li>5000m 河村 高重</li> <li>伊東 翔吾</li> <li>400mH 山下 璃久</li> <li>3000mSC 齊賀 大和</li> <li>廣見 開成</li> <li>5000mW 神野 啓也</li> <li>400mR 田村・河野・日野・岡田</li> <li>1600mR 田村・清村・島田・越野</li> <li>走幅跳 日野 友哉 4位 (四国大会出場)</li> <li>三段跳 友岡 翔</li> <li>やり投げ 田村 智紀</li> <li>辺見 慶介 7位</li> <li>本田京太郎</li> <li>● <b>陸上競技女子</b></li> <li>走幅跳 佐伯 春香 9位</li> <li>走高跳 佐伯 春香</li> <li>やり投げ 小野 真琴 7位</li> <li>● <b>バレーボール男子</b></li> <li>1回戦 新居浜西 2-0 八幡浜</li> <li>2回戦 新居浜西 2-1 今治北</li> <li>準々決勝 新居浜西 0-2 三島</li> <li>ベスト8</li> <li>● <b>バレーボール女子</b></li> <li>1回戦 新居浜西 1-2 松中央</li> <li>● <b>バドミントン男子</b></li> <li>団体1回戦 新居浜西 3-2 松城南</li> <li>2回戦 新居浜西 3-2 松山南</li> <li>準々決勝 新居浜西 0-3 西条農</li> <li>個人シングルス 安永 啓人 2回戦</li> <li>● <b>バドミントン女子</b></li> <li>団体2回戦 新居浜西 3-0 東温</li> <li>準々決勝 新居浜西 3-1 松山北</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>準決勝 新居浜西 0-3 新居東 (四国大会出場)</li> <li>個人ダブルス 三好裕理香・近藤 百花 2回戦</li> <li>個人シングルス 近藤 百花 1回戦</li> <li>● <b>卓球男子</b></li> <li>団体1回戦 新居浜西 1-3 新高専</li> <li>個人シングルス 高橋 諒多 1回戦</li> <li>個人ダブルス 片山 翔太・寺岡 拓穂 2回戦</li> <li>● <b>卓球女子</b></li> <li>団体1回戦 新居浜西 2-3 津島</li> <li>個人シングルス 和島陽菜 2回戦</li> <li>● <b>ソフトテニス男子</b></li> <li>団体1回戦 新居浜西 1-2 八幡浜</li> <li>● <b>ソフトテニス女子</b></li> <li>団体1回戦 新居浜西 0-3 東温</li> <li>個人戦 宗本・末次 1回戦</li> <li>● <b>ハンドボール</b></li> <li>1回戦 新居浜西 18-17 松山南</li> <li>2回戦 新居浜西 14-32 新居工</li> <li>ベスト8</li> <li>● <b>サッカー</b></li> <li>1回戦 新居浜西 1-0 帝京五</li> <li>2回戦 新居浜西 1-0 松山工</li> <li>準々決勝 新居浜西 0-2 宇和南</li> <li>ベスト8</li> <li>● <b>柔道</b></li> <li>個人66kg級 妻鳥 壮佑 2回戦</li> <li>● <b>剣道男子</b></li> <li>個人 篠原 大河・佐伯 久・妻鳥 秀胤 1回戦</li> <li>長岡 和弥 2回戦</li> <li>団体1回戦 新居浜西 3-0 南宇和</li> <li>2回戦 新居浜西 2-2 新田 (代表戦負け)</li> <li>● <b>剣道女子</b></li> <li>個人 福山あきの 1回戦</li> <li>団体1回戦 新居浜西 0-5 帝京五</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>弓道男子</b></li> <li>団体 予選</li> <li>● <b>弓道女子</b></li> <li>団体 予選</li> <li>● <b>登山</b></li> <li>オープン参加</li> <li>● <b>ダンス</b></li> <li>作品名『泡沫〜ゆく河の流れより〜』 9位</li> <li>● <b>テニス男子</b></li> <li>団体2回戦 新居浜西 1-2 新居東</li> <li>シングルス 坂田 2回戦</li> <li>伊藤 1回戦</li> <li>ダブルス 三好・山地 1回戦</li> <li>坂田・伊藤 1回戦</li> <li>● <b>テニス女子</b></li> <li>団体1回戦 新居浜西 2-1 東温</li> <li>2回戦 新居浜西 2-0 八幡浜</li> <li>準々決勝 新居浜西 0-2 済美</li> <li>ベスト8</li> <li>シングルス 白石 2回戦</li> <li>鈴木 1回戦</li> <li>ダブルス 白石・鈴木 ベスト8</li> <li>● <b>新体操</b></li> <li>フープ 加藤 妙恵 (11.20) 10位</li> <li>ボール 加藤 妙恵 (11.70) 4位</li> <li>総合 加藤 妙恵 (22.90) 8位</li> <li>● <b>少林寺拳法</b></li> <li>男子自由単独演武 秋山 皓大 予選</li> <li>女子自由単独演武 田中 遥 優勝 (全国大会・四国大会出場)</li> <li>白木菜々子 6位 (四国大会出場)</li> <li>● <b>水泳</b></li> <li>100mバタフライ 宮崎 穂香 3位 (四国大会出場)</li> <li>50m自由形 宮崎 穂香</li> <li>100m平泳ぎ 福井 芹奈</li> <li>200m個人メドレー 福井 芹奈</li> </ul>
--	--	---

## 文化部 大会結果

<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>放送部</b></li> <li>第53回愛媛県高等学校コンテスト 総合優勝</li> <li>(第61回NHK杯全国高校放送コンテスト愛媛県予選)</li> <li>アナウンス部門 優秀 廣實 萌々花 (全国大会出場)</li> <li>朗読部門 優秀 石川 愛華、河端京之介 (全国大会出場)</li> <li>創作ラジオドラマ部門 優良 「トランス〜つながる〜」</li> <li>テレビドキュメント部門 優良 「知ることからはじまる。」</li> <li>● <b>棋道部</b></li> <li>第38回全国高等学校総合文化祭囲碁部門愛媛県大会 交流戦全勝賞 安藤 魁呂</li> <li>第38回全国高等学校総合文化祭将棋部門愛媛県大会 男子団体 (篠原・星加・井下) 2回戦 新居浜西 2-1 松山北</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>準決勝 新居浜西 1-2 今治西</li> <li>3位決定戦 新居浜西 1-2 松山東 4位</li> <li>女子団体 (国村・高橋・尾藤) 優勝 (全国大会出場)</li> <li>女子個人 安永 栞 3位</li> <li>第38回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会愛媛県大会 男子団体 (畑田・安藤・星加) 1回戦 新居浜西 1-2 松山東</li> <li>● <b>合唱部</b></li> <li>第7回声楽アンサンブルコンテスト全国大会 優良賞</li> <li>● <b>書道部</b></li> <li>第7回書道パフォーマンス甲子園 (全国大会出場)</li> </ul>
---	--



# 新居浜の動き

## 変わりゆく風景

～進む新居浜駅前土地区画整理事業～

永らく取り組まれてきた新居浜駅前土地区画整理事業も、ほぼ完成を迎えました。今回は、2月に供用が開始された新居浜駅南北自由通路（愛称「出逢いロード」）や駅周辺に設置されるモニュメントについて紹介します。



完成した出逢いロード

### 新居浜駅南北自由通路「出逢いロード」完成

「出逢いロード」は、老朽化した既設の跨線橋に代わり、整備されたもので、安全で快適に利用できる歩行空間を確保するために、通路や階段部分には、屋根を設置するとともに、車いすや自転車などでも移動ができるように、エレベーターが備えられています。また、北側には、周辺のにぎわいづくりや利便性の向上を図るため、展望デッキと公衆トイレが設置されました。

愛称の「出逢いロード」は、全国83件の応募の中から、決定されました。「ここで同級生や親せきなど、人と人が出逢うことがあるだろう」と思い、応募されたそうです。



皆さんの出逢いを見つめます

また、南北の階段の脇には、銘板が備え付けられています。その筆書きは、本校書道部の安藤咲笑香さんによるものです。

116点の応募作品から5点に絞り込まれた作品は、2次審査を経て、来年1月をめどに設置される予定です。

## 今、蘇る新居浜塩田の記憶

別子銅山と同じく、300年の歴史を持ち、新居浜市産業発展の礎となった多喜浜塩田を中心とする遺産があります。

多喜浜塩田は、元禄年間にその開発が着手され、最盛期はおよそ240haもの規模となり、日本有数の塩田として栄えましたが、昭和34年に国策により、廃田となりました。

近年、往時を知る方々も減少しつつあることから、地域を挙げての保存・継承に取り組み、平成17年には、多喜浜塩田開発300年を記念して、小学校の敷地内に全国でも珍しい製塩施設である、「ソルティ多喜浜」が建設されました。

そこで、新たに整備される施設を紹介します。

### 塩の学習館

多喜浜小学校に併設された「ソルティ多喜浜」は、塩づくりの体験学習の場として、子どもの学習の場となるとともに、今年はサウジアラビアやペルーの大使が視察に訪れるなど、社会教育・地域学習・国際交流の場として活用されていますが、屋外施設のため、その利用が天候に左右されてきました。

このため、塩田の歴史を語る写真やパネルを展示するコーナーや、約50人が塩づくりを体験できる実験・学習室を備えた施設が、「ソルティ多喜浜」に併設して整備され、7月末頃に完成の予定です。

地域の方と子どもたちが伝統文化とふれあうことのできる「ふるさと学習」の拠点としての活用が期待されています。

### 岡城館歴史記念公園

藤田家は、天野家、岡本家などと並び多喜浜塩田の発展に尽くされたことで知られています。その一方、屋敷内に道場を構え、近隣の青少年に武道を指南したことも有名で、藤田家の邸宅は剣道場の名前でもある「岡城館」として、親しまれていました。

この旧藤田邸は、藤田家より、新居浜市に寄贈を受けたことに伴い、関係者により活用が検討されてきましたが、このたび、岡城館歴史記念公園として開園しています。

残念ながら、母屋や離れは、平成16年の台風被害により、甚大な被害を受け、解体されました。比較的被害の少なかった長屋門や蔵・日本庭園などが保存・整備され、「浜旦那」と呼ばれた塩田経営者の生活ぶりが偲ばれます。地域住民が地元の歴史にふれあうことのできる場として、旧藤田邸の往時の写真や、多喜浜塩田の歴史が、パネルで紹介されていて、学習の場としても活用できるようになっています。



新居浜の誇りが増えました



# 還暦を迎えて

## ―故郷は、遠きにありて思ふもの―

佐藤 裕一・美恵子(旧姓中山)

### 還暦とは

なぜ、60歳をもって「還暦」というのか、あらためて調べてみた。干支は、中国周時代に始まり、漢代にかけて漢民族が狩猟民族から農耕民族として定着していく段階で整った経験的暦学であると言われている。十二支の組み合わせで、十干は年月日を表す「甲乙丙丁戊己庚辛壬癸」、十二支は日本でもよく知られているが、時間や方角を表す「子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥」の組み合わせで成り立っている。十干から一つ、十二支から一つを組み合わせるのだが、それぞれ陽と陰が決まっており、組み合わせは陽と陽、陰と陰の組み合わせのみで、陽と陰のケースはない。十干に陽と陰がそれぞれ5つ、十二支にも陽と陰が6つで陽と陽のパターンが30通り、陰と陰のパターンが30通り、合計60通り、毎年組み合わせが変わり、60年で1回りするので、還暦ということになったとか。ちなみに今年が「甲午」で、来年は「乙未」である。

### 学生時代

私とカミサンは、昭和48年に卒業した。同期生同志で結婚したカップルは何組か

あり、そのうちの二組である。私とカミサンの学生時代は、まさに正反対の生活を送っていたようである。というのも私は、理科系コース、カミサンは文科系コースであり、話をしたこともなく、ほとんど知らないまま卒業した。私は、文化祭の日は朝の出席のみで帰宅、校内マラソン大会は、まともに走ったことは3年間で一度もなし、パチンコで警察に補導されたこともある。ただ一つだけ力いっぱい運動会で応援団長をしたことである。卒業アルバムを見ると、応援合戦風景は立派に掲載されているのだが、肝心の団長の姿が映っていない。本当に団長をしたのかと今も疑われている。カミサンの思い出は、2年時の運動会前夜に実家の庭にてクラスメート皆でほとんど徹夜をして仮装行列の「ゴルゴダの丘」を作り直したこと、また文化祭の演劇部の発表では、スポットライトを浴び、長ゼリフを叫ぶ見せ場になる場面で、先輩がゼリフをとばしたためカミサンの出番がなくなりずっとベッドで寝ていただけの舞台になったことである。

大学時代も、同じ東京で生活していた

が、カミサンは現役で入学、ほとんどアパートと学校を往復する東京生活で、英語劇に力を入れていた。一方、私は、浪して「立てばパチンコ、座れば麻雀、歩く姿が競馬場通り」と言われる生活を送っていた。という訳で、年に1回あつた西高の卒業生の集まりにお互いに参加しなかつたので、一度も会つたことはない。

### 結婚後

このような二人であつたが、昭和57年に結婚し、倉敷で生活を始め、その後福山、広島、東京と転居し、東京生活は25年になる。私は6年近くアメリカ勤務をし、最後の1年余は、カミサンと二人きりでゴルフ、旅行、グルメツアーと楽しんで。もちろん仕事もしたが。

ところで、東京の新橋に「有薫酒蔵」という居酒屋がある。この店には、日本の相当数の高校のノートがあり、卒業生が勝手に寄せ書きをしている。もちろん西高のノートもある。名前も顔も知らない先輩、後輩が寄せ書きをしており、読んでいくと室生犀星の詩にある「故郷は、遠きにありて思ふもの」そのものの気分

に浸ることができる。

私共には2人の子供がいて、上の娘は、今年の1月に結婚して東京で働いている。下の息子は、未だ独身だが、2人とも東京出身と言っている。新居浜との縁は、私共で終わってしまった。しかし、私共は、数多くの先生方に育てていただいたことを忘れずに心から感謝するとともに、母校、新居浜西高の発展を遠くから祈念しております。





# 50年目の卒業式

昭和39年3月卒業 名 本 洋

去る3月1日、新居浜西高校の卒業式に50年前の卒業生(昭和39年3月卒)が招かれ、40余名が各地から集まり、本年卒業267人の若者達の晴れやかな門出を一緒に祝う機会に恵まれました。我々当時の卒業式には入試の日程上、参加できなかった者も数多く、そのような者には今回の卒業式参列は50年目にとつとかなった卒業式として、まことに感慨深い式典となりました。

式の始まりは卒業生各人の名前読み上げです。1人、1人の名前が呼ばれ、それぞれが答え、起立していきます。高らかなハイという凛とした声、すつくと起立する動き、一斉に着席する動き、まことに凛々しく、講堂内の寒気と相まって、例えようもなく清々しいものでした。式の終わりは女子生徒による答辞です。ともに励んだ友への思い、ここまで育ててくれた父母への思い、励まし続けてくれた先生への思い、これから旅立つ未来への思い、これらの思いをまことに美しい日本語で、そして美しい声で出席者に語りかけ、終わりにには透きとおった声で美しい歌を披露してくれました。このように美しい日本語、美しい声を長らく聞いたことはありませんながら、清しい涙が頬を伝うのを止められなかったのは私1人ではなかったでしょう。

我々昭和39年卒は終戦の年に生まれ、戦後日本の幼年期、青年期、壮健期、成熟期は我々のそれらと一致します。我々がくたびれかけた最近では日本もややくたびれていますが、若者達の澁刺とした凛々しい姿を見て、これから先の日本も大丈夫との感を深くしました。このような素晴らしい先輩たちを育て続けて来られた先生方に深く敬意を表します。

式の後、我々昭和39年卒は会場を移り、同期会を開きました。50年振りという顔にもすぐ慣れ、チャン付けで呼び合うの時間は大きく掛かりませんでした。式で見た若者達、在学時の思い出、最近のお互いの有様などと話しはきかず、予定の時間はあっという間に終わり、次の再会を約して、名残惜しく散会いたしました。

このたびの50年目の卒業式はこのように我々にとつてはまことに感慨深いものとなり、機会を与えていただいた校長先生、この行事実現に尽力いただいた樟樹会役員、同期会を手配してくれた新居浜在住の幹事の方々に、この紙面を借りまして厚く御礼申し上げます。(来年以降出席される方へ…春とはいえず、会場は70前の体にはやや寒く、防寒対策を充分に)



療最前線「がん細胞狙い撃ちの人工細胞の開発」をテーマに講演して頂きました。質疑応答もありました。出席者一同の関心は高く、がん完治に向けての今後の取り組みに思いを馳せました。

## 東日本樟樹会

### 第6回東日本樟樹会総会・懇親会

東日本樟樹会の第6回総会と懇親会は、5月25日(日)12時から14時30分まで東京都品川区西五反田の「ゆうぼう」と「芭蕉の間」で開催されました。

出席者は、来賓として佐々木靖夫学校長、畑田雅敏樟樹会会長、ゲストスピーカーとして加藤敬一様(38年卒業)をお招きし、総勢60名。昭和28年卒業の方から、平成20年卒業の方まで幅広い年次の同窓生が出席しました。総会では井上会長の開会あいさつの後、25年度の事業報告と幹事役員の見直し(2年間)を全会一致で承認頂きました。来賓の佐々木校長先生から母校の現状、続いて畑田樟樹会会長からは本部同窓会の現状と今後の活動について話がありました。ゲストスピーカーの加藤様からは「がんば

# 支那だより

## 近畿くすのき会

### 第18回近畿くすのき会総会・懇親会

第18回近畿くすのき会と懇親会は、昨平成25年6月29日(土)11時30分より大阪弁護士会館で開催されました。来賓として樟樹会より畑田会長、母校の藤田校長先生にご出席いただき、昭和21年の卒業の方を始めとして、総勢60名強の会となりました。

総会は、村上市会長の開会の挨拶の後、畑田樟樹会会長から母校の100周年事業への抱負と会員への協力をお願いがあり、続いて藤田校長先生から母校の現況報告がありました。議案の審議では、一部役員変更を含め全議案が承認されました。

懇親会では宮下和夫氏のピアノ演奏、中西康雄氏の歌唱指導により「校歌」「童謡」「川の流れのように」等を西高時代にタイムスリ

アップしたかの様に生き生きと、楽しく全員で合唱し青春を取り戻しました。懇親会では、恒例の宮本潤子さんの流暢な司会で参加会員との活発で楽しいトークが展開され、終始西高の話題がつきませんでした。その後、幹事の皆様からご提供いただきました景品の大抽選会が催され、帰りには畑田会長よりいただいた校章マーク入りの「どら焼き」のお土産に、またまた、故郷と西高への郷愁が募るばかりでした。



記 大澤 明文



副幹事長 小西 良二

同期  
会  
俾  
り

次は2年後、

「古希」の会

梶原 常晴（昭和40年卒）

「お互い高齢者…。3年に一度の開催では時間が足りなくなる。2年に一度は開きましょう。次は、松山で。」

2年前の「新居浜祭り40年卒同期会」の席上、要望があり、これを受けて、平成25年11月17日（日）、松山市道後の「にぎたつ会館」で、同期会を開きました。

初めての松山開催ということで、どのくらい集まるのか、不安もありましたが、クラスごとの呼び掛けなどから、東京、関西からも結構参加があり、総勢53人の顔合わせとなりました。

会場では太鼓祭りのビデオが流され、あちこちに固まりができ、50年振りの再会者も。記念撮影のあと、物故者に黙とう。太田嘉一世話人代表の



挨拶で開会しました。

今回、恩師紹介は一人で、松山在住の崎野次雄先生（体育）です。2年D組を受け持ち、短パンで運動場を駆け回っていた当時の姿を思い出しました。

盛り上がったのは、自己紹介です。一人ひとりが近況を報告。持ちタイムを1分程度としていましたが、趣味や健康、家庭のことなど、マイクを持つとお構いなし。全員参加の楽しい触れ合いとなりました。

約3時間の懇親会でしたが話は尽きず、宿泊用の大部屋に移り午前1時半ごろまで、情報交換を深めたクラスもありました。

次は、平成27年、新居浜祭り同期会（古希の会）開催を決め、全員元気で再会することを誓いました。

昭和47年卒業生同期会  
わたくしたちの  
お・も・て・な・し

石川 美千子（昭和47年卒）

「赤いちゃんちゃんこ」のイラストのついた葉書が全国に向けて発送され、出席の返事が百通余り返ってきました。

西高見学会。懐かしい母校散策から同期会は開始しました。来年には新しく生まれかわる本館は見納めです。クラブハウス、武道場、そしてグラウンド。みんなの思い出の場所を巡ります。教室にこっそり用意していた抜き打ちテストには抗議の声があ

がります。

同期会のオープニングは見学会の様子の上映からです。誰もいきいき、わくわく。恩師白木先生のお話しにたちまち42年をタイムスリップ。そこには高校時代の私たちがいました。話したいことは

後から後からわいて出ます。全体の記念撮影、クラスごとの記念撮影、抜き打ちテストの結果発表。楽しい時間はどうしてもこんなにも速く過ぎ去るのでしょうか。

翌日には「新居浜あちこつツアー」に出発。新居浜にとてもすてきな洋館があること、ご存知ですか？随分少なくなった山田の社宅も大切な遺産です。もちろん東平の天空の町もね。このツアーは新居浜に長く住んでいる私たちにとても発見の連続でした。

本年度から卒業50周年の人たちが3月1日の卒業式に招待されることになりました。次の私たちの集まりは8年後？いえいえ、またすぐにでも会いたい、そんな気持ちです。



NWH48 同期会

山地 義之（昭和48年卒）

昨年8月17日（土）、リーガロイヤルホテル新居浜で、守口、後藤、高橋の3名の恩師をお招きし、NWH48の同期会を開きました。NWH48とは、新居浜西高校（Niinaha West Highschool）の昭和48年卒ということで、松山市在住のK君がAKB48結成よりずっと前に名付けたものです。

NWH48の同期会は、これまで不定期に連絡のつく人だけで小規模に開いていましたが、昨年は西高卒業40周年の節目の年ということで、同窓会名簿に住所が掲載されている約270名に往復はがきを送付したところ、半数の人から返信があり、過去最多の59名（恩師3名含む）の参加がありました。

来賓の先生方や旧友たちの在校時の懐かしい思い出話や、孫自慢など「アラ還」世代ならではの近況報告で、大いに盛り上がった同期会となりました。

最後に、佐々木教頭先生（NWH48のメンバー）からお借りした現在の母校の近況をま





めたDVDを観賞したあと、全員で校歌斉唱を行い、お開きとなりました。

なお、2年連続となりますが、今年の8月16日(土)18時から、ユアーズで還暦祝賀パーティを挙行いたしますので、メンバーのみさんの参加をよろしくお願います。

## 私たちも55歳！に

なりましたね!!

## (GOGO)同期会を開催

世話係 真鍋 曜 (昭和52年卒)

平成26年1月3日(金)18時からユアーズにおいて、卒業以来3回目となる昭和52年卒同期会を開催しました。

前回開催した同期会から早くも10年余りが経ち、私たちも55歳となりました。

55歳といえは一昔前までは企業定年、今では定年延長の時代ではありますが、心身そして生活環境ともに一つの区切りの年周りとわかれており、その55(GOGO)を記念して、ユアーズで開催された今回の同窓会には、全国の、そして地元在住の、なんと海外からも馳せ参じた65人が参加、そして恩師の鴻上政明先生、後藤勝正先生、青野武先生にもご出席いただき、とても懐かしい一時を過ごすことができました。

思い出こそば、私たちの同期は、在学当時から個性派揃いで役者も豊富。それだけに、エピソードや思い出も星の数ほどあ

り、普段でも何人か集まると当時の武勇伝や思い出話に花が咲きます。

当日もあつという間の再会でしたが、たいへん名残惜しいなか最後は、後藤先生率いる当日急遽編成した「西高校歌合唱隊」のリードにより、全員で久しぶりの校歌を歌ったあと、「にいほま、そーりゃー」の音頭で締め括り、5年後、60歳での再開を確認しました。

皆さん！またお会いする5年後を楽しみに、それまで元気で頑張りましょうね！



## 平成12年卒業生クラス会 大人になった今だから、 皆に会いたい

日野 愛子 (平成12年卒)

東京在住の卒業生が、校舎建て替えの情報を聴き、「建て替え前にもう一度校舎を見ておきたい」「大人になった今だから、皆に会いたい」という思いで、卒業以来は

じめて、平成12年卒の3年2組のクラス会が企画されました。

担任の近藤都先生にもご連絡を取り、来ていただける予定だったのですが残念ながら体調不良でご欠席。

この日は特別に、元3年2組の教室に入らせていただくことができ、写真撮影などをして当時を懐かしんだ後、市内で会食。近藤先生には色紙をお送りし、後日、数人のメンバーだけで先生とも会食ができました。

3年2組としては初めてながら、クラスの半数近くの16人が参加でき、嬉しい再会でした。

これを機に、また必ず集まろう！と言いつけて別れました。何年経っても、同窓生との再会は本当に嬉しいものです。



## 編集後記

消費税引き上げの春でしたが、影響はいかがでしょうか。

本年度は、本校創立100周年に向け始動の年となります。また、47年間卒業生を送り出した本館がこの秋から取り壊され、来年度末には新校舎が完成する予定です。この夏は、壊される前に一度足を運ばれ、あなたの高校時代を思い出してみてはいかがでしょうか。

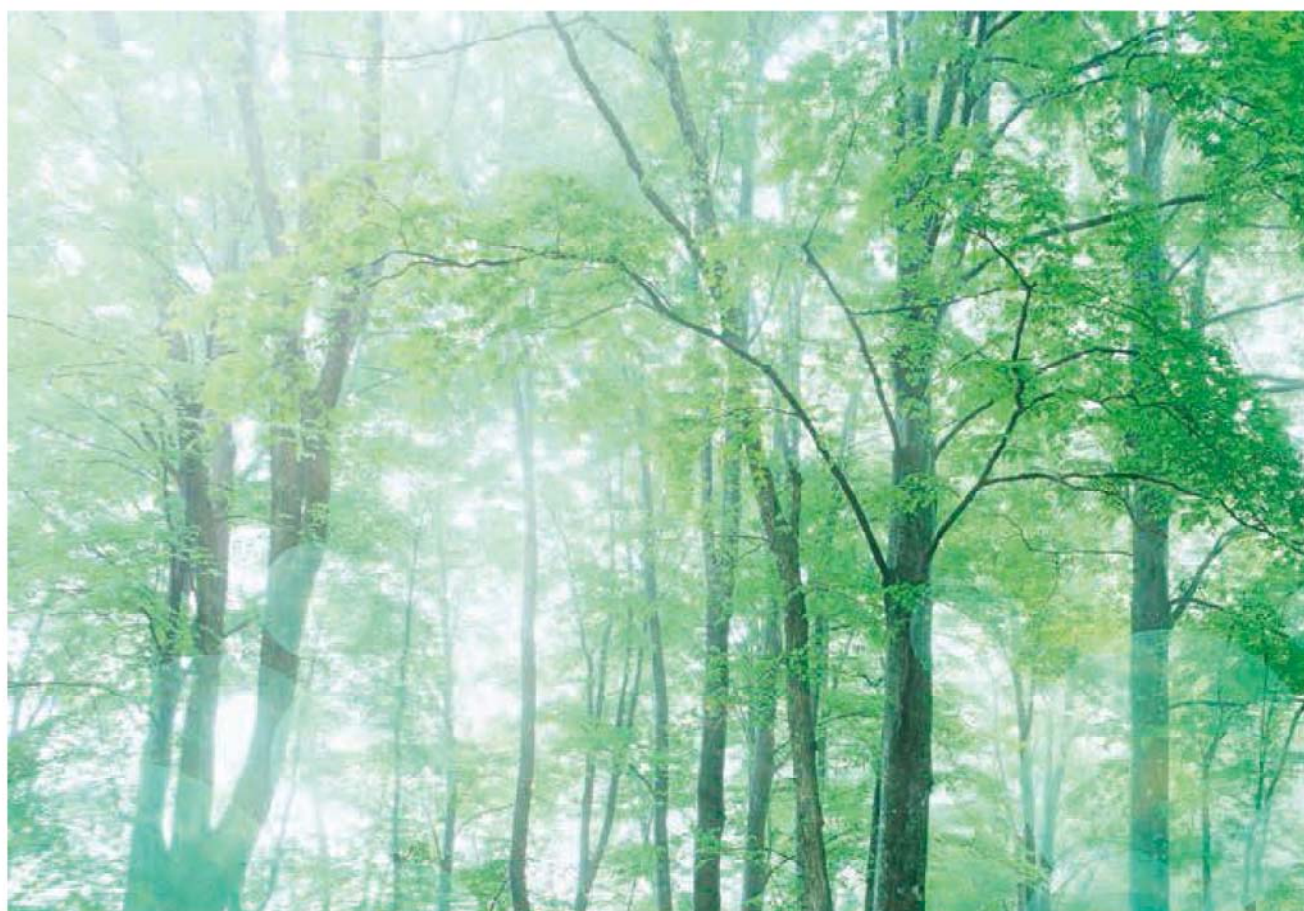
本誌も創刊以来25号、四半世紀を経過したことになります。編集委員会一同、皆様に親しまれる会報を目指し、今後も頑張つてまいる所存です。ご寄稿、広告掲載、ご意見、ご要望をお待ちしております。

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 委員長 近藤 博司(昭44) | 委員 藤澤 真美(昭63) |
| 委員 世良 賢克(昭26)  | 委員 越智 孝司(平2)  |
| 委員 武田 信之(昭28)  | 委員 片岡 大介(平9)  |
| 委員 近藤 司(昭42)   | 委員 日野 愛子(平12) |
| 委員 畑田 雅敏(昭44)  | 委員 吉村 新平(平15) |
| 委員 伏見 紀子(昭44)  | 委員 鈴木 雅大(平16) |
| 委員 石川美千子(昭47)  | 委員 安藤 寛和(昭58) |

発行所 樟樹会  
〒79210024  
新居浜市宮西町4-16  
TEL 089713214331  
FAX 089713214331

発行者 畑田 雅敏  
編集者 近藤 博司  
印刷所 株式会社サルト  
発行日 平成26年7月15日

表紙撮影：大久保直幸氏(昭和44年卒) 大久保フォトス



樟樹会 新居浜西高等学校同窓会

ホームページ <http://www1.ocn.ne.jp/~kusu/>  
E-mail [kusunoki@topaz.ocn.ne.jp](mailto:kusunoki@topaz.ocn.ne.jp)